



Q：乳がん検診について教えてください。

A：乳がんは女性が最もかかりやすい悪性腫瘍であり、40～50歳代の女性に多い病気ですが、若い年代で乳がんになる女性も少なくありません。乳がんを早期に見るためには、定期的に乳がん検診を受けることが推奨されています。マンモグラフィ検診は、乳房をプラスチックの板で平たくし、乳房専用のX線装置で乳房全体を撮影する検査で、触診だけでは発見できないしこりや、石灰化のある小さな乳がんを発見できます。マンモグラフィによる検診は、乳がん死亡率を減ら

すという意味で、特に40歳以降で有用であることが科学的に証明されています。しかし乳腺の発達している若い女性の場合、乳腺が白く映るため病変が検知しにくく、若い年代、特に20歳代では推奨されていません。一方、超音波検診は超音波（エコー）を使って乳房の病変を検査する方法



ですが、放射線を使わないので妊娠中でも検査ができ、乳腺密度の高い人や若い人への検査に適していると言われています。

（岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、ニシコー北口駅前ビル2F）

☎055・288・1801